

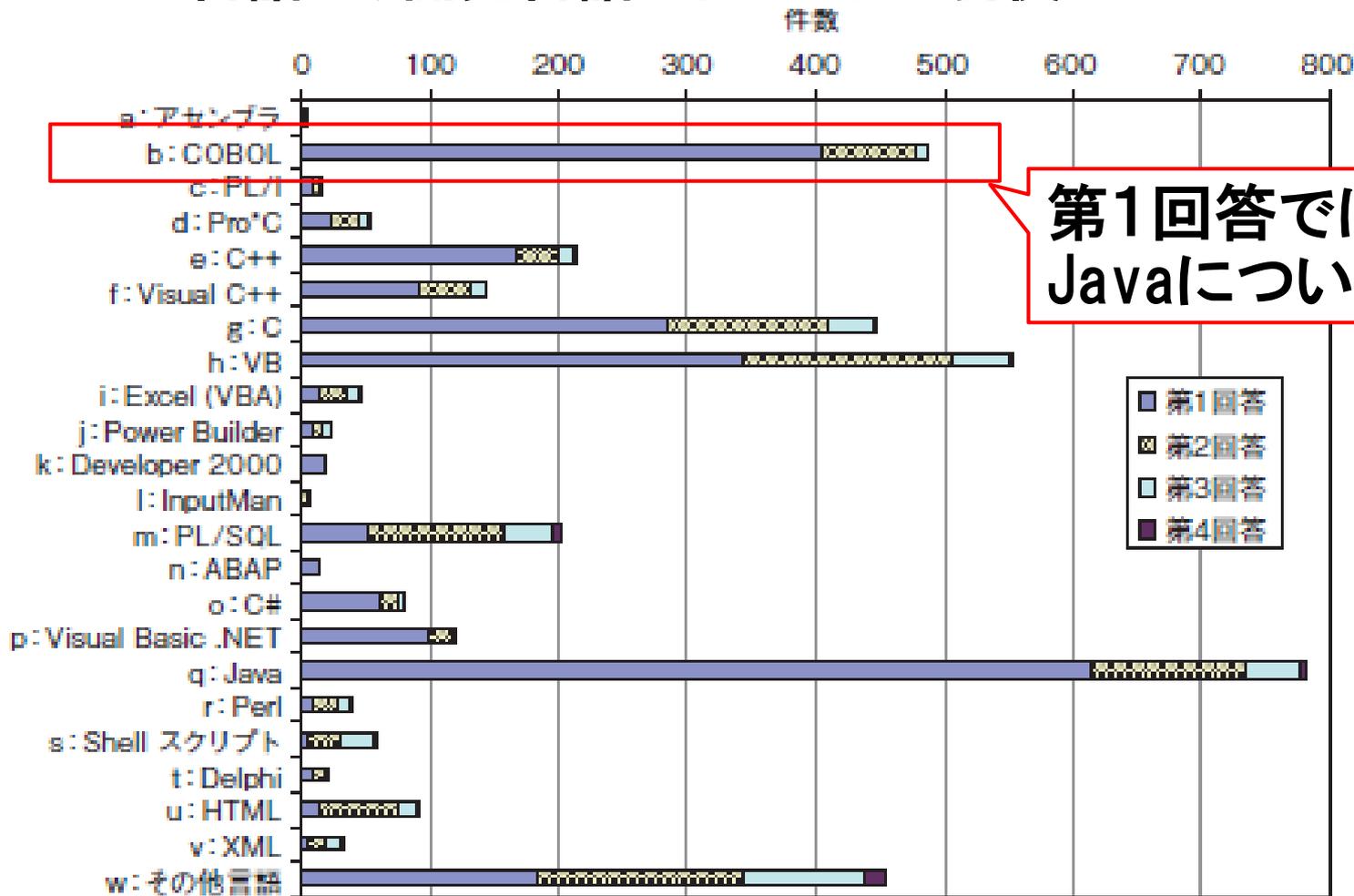
OSS COBOL WGの概要

2012/01/25

株式会社 日立ソリューションズ
技術統括本部 技術開発本部 オープンソース技術開発センタ

吉田 行男

■ COBOL言語は、開発言語としていまだ現役



Copyright (c) 2011 IPA

出典:IPA ソフトウェア開発データ白書2010-2011

■ OpenCOBOLの必然性

現状の問題点

IT経費削減要求

技術者の高齢化

レガシー製品のEOL

高額な更改コスト

解決案

OpenCOBOLによる
マイグレーション

COBOL資産の有効活用

■ 主旨・目的

1. 開発・運用分野でOSSを活かすための技術ベース作り

- 技術情報、適用・運用技術情報のドキュメント整備
- エンハンス開発、周辺ツール・ユーティリティ類の開発

2. 持続的なエコシステム・協業体制構築のための機会作り

- 相互プレゼンテーション、マーケティング活動
- (新)ソリューションドメインの意識共有、共同PR・提案、プリセールス活動

■ 進め方

- 技術系のテーマとマーケティング系のテーマに分け活動推進する。

#	分類	説明	リーダー(敬称略)
1	技術系	<ul style="list-style-type: none">・技術を中心としたissueを共有→有志メンバでタスク化して実行→成果を頒布、の一連のエンジニアリングを実施する・ML,CMS等を当面の場として利用し、個別のissueの提起、および、並行してissue共有の仕組み、成果物の管理方法、CLA他運用ルールなどを議論する。	東京システムハウス 清水 ランカードコム 峰松
2	マーケティング系	ユーザ観点・営業観点でのissueを提起し、上記技術系への共有を図る	バイガコーポレーション 山崎 日立ソリューションズ 吉田

Hitachi Solutions